



令和4年1月26日

研究主題 「学ぶこと・考えることを楽しむ」

～自分の考えをもち広げ深める力の育成：「考えの形成」を促す指導法の工夫～



1月26日、今年度最後の校内研究が行われた。2回目に引き続き、「算数科」での実践となった。3年1組では、古川弘美教諭が『まるいかたちを調べよう』の単元、4年1組では、宮崎貴浩教諭が『広さの表し方を考えよう』の単元で授業を行った。

まず3年1組では、ボールや卵、空き缶など丸いものを真上や横から観察し、どこから見ても円に見える形である『球』の特徴を捉えていき、後半はパソコンをつかって、実物では見にくい『球』

の切り口を見て、さらに『球』の定義を確認していった。自分がどのように考えたのかのプロセスを大切にしながら、ノート書き表したり話したりして『球』への理解を高めていった。

4年1組では、複合図形の面積を、既習の面積の求め方の公式を用いて、工夫しながら求めていった。答えが求められたからよしとするのではなく、他の考え方はないか、友達はどのようにやって考えたのかなど、多面的にとらえられることを目標に授業を行った。



MetaMoji という授業支援アプリを用いて、パソコンの画面で友達の考えを共有し比較しながら理解を深めていくことができた。

研究協議会では、「授業・人」塾代表である田中博史先生を再び講師としてお招きし、授業と協議会の指導・講評をいただいた。小学校の学習は中高と違い、活動や体験を通して知っていることを改めて

学習として理解していくことであるとおっしゃっていた。そのため、教師側が教えたり、考えを導いたりするのではなく、子どもたちに選択肢をもたせ、どうしてこうなるの？もっとこうしたほうがいい！などという言葉が飛び交う授業にしていくべきであると教えていただいた。

今回ご指導いただいたことを意識しながら、算数科の授業だけでなく、他教科にも生かして、文教大学附属小学校全体で授業の質を高めていきたい。

